

# 第42回新日美展特集号



164号

新日本美術協会

事務局  
横浜市港南区港南台  
1-39-5  
鈴木忠義方  
Tel.045-832-0504

編集委員  
石原修  
篠光定  
早田美智子  
小高峯夫

原稿常時募集  
次号平成31年2月予定

## 天候荒れの四二回新日美展

実行委員長 小高 峯夫



小高 峯夫

作品の傾向としては小品部門の枠を会員まで広げた事もあり、小品の占める割合が若干増えた。

九月二〇日搬入初日が雨、公開日が雨、そして三〇日表彰式開始の夕刻、二四号台風の直撃を受けた。表彰状授与も、講評もそこそこに、来賓の挨拶もカット。せつかくのパーテイ料理もお酒も帰りの足止めが心配でゆっくりに喉を潤す事ができなかった。式開始から一時間足らずで解散となった。

会期前半はこんな状況だったが後半は落ち着いて日が続き来観者の入りも順調になった。終ってみれば入場者は五三七五人で昨年を上回った。展示数は絵画二六〇点、工芸五一点、合計三一一点とほぼ横ばい、応募人数も例年並みという結果であった。

展覧会というイベントは膨大な作業量、しかも超特急の作業を必要とする。実行委員は搬入が始まった途端テンテコまいの忙殺に追われる。一例をあげれば初日に間に合わせなければならぬ目録や、ポストカード、図録等は四日間仕上げるという早業である。展覧会は仲間内だけで出来るものではなく、周囲多くの支援がなければ出来ない。

超特急で印刷物を届けてくれる業者、職人技で展示してくれる業者、副賞の品々を提供してくれる企業等々多くの支援を受けている。このような状況を真摯に受け止めなければならぬと思う。

### 講評

美術評論家  
中野 中 先生

物を描いて自分の思いを表現する、それが創作だと思います。

私は長い間、この会の審査という事でお世話になっていますが、かなり皆さんの意識がそういう方向に向かつて来ているという事を、今回の作品を拝見しながら、嬉しく思います。

もちろん技術がなければ自分の思いは描けませんから、技術はしっかり磨かなければなりません。人生を加味してきた歳月、その中で悲喜ごもごも、いろんな体験をし、それを肥やしとして絵の中に盛り込む、それによって絵が豊かに、奥深いものになっていくと思います。

対象を生真面目に描く、素晴らしい事です。素晴らしい事です。「表現」という点ではちよつと物足りない気がします。時にはすこし遊び心を入れて、そういう遊び心という余白の中に思いを込めてみたり、可能性を探ってみたり、実験や挑戦的な要素を含めてみたり、いろんな事をして頂ければより一層、理論的な絵が出来るんじゃないかと思えます。

審査員の皆さんは幅広い視野をお持ちですから、思い切って遊んで、楽しく絵を描いて戴きたいと思えます。

### 講評

元東京造形大学教授  
芳賀 文治 先生

生涯学習の現代社会で、打ち込むものを持って日々努力、邁進されている皆様方の益々のご発展を願っています。

初めに、昨年より衆議院議長賞、及び参議院議長賞の二つが加わりました。この衆・参 議長賞が承認されたということは、この新日美展が価値ある美術団体であり、今後発展の期待できる美術団体であることを国が認めた証の賞です。

このことは、会員の皆様は勿論のこと、出品された全員の喜びとするところであり、皆様が誇りと自信を持つて益々の制作意欲を喚起し制作にあたって行かれますことを願っています。

#### 審査会に参加しての印象

- 一 いい作品が多く、甲乙つけ難い
- 二 作品の大きさが揃っている

#### 私の見方

- 一 どこに感動されたのか？ 主体 (主題)は何か？
- 二 主題を表現する色彩はどうか？
- 三 形 構成(構図)はどうか？

作品はよく「自分を表現することだ。」と言われます。自分が感動した対象をどのように表現するかが自分の課題です。